

施設や団体にマスクを寄贈

連合北海道は5月11日からマスクの寄付を呼びかけ、6月15日現在、マスク64,615枚（うち政府配布マスク49,233枚）が寄せられた。そのうち札幌市内中心部に設置している「マスク回収ポスト」には、マスク57,592枚（うち政府配布マスク46,358枚）が投函されている。

集まったマスクの施設・団体への寄贈は、地協・地区連合単位で行っているが、札幌地区連合では、6月15日までに児童会館や児童相談所、子ども食堂など、8団体に計27,900枚（うち政府配布マスク24,600枚）を寄贈した。



寄付を募っているマスクは、政府配布の布製マスクのほか、未使用・未開封の市販されているマスクも対象とし、郵送による寄付も受け付けている。道外からも多くのマスクが届き、寄付していただいた方からは、「北海道は大変な状況と聞いており、少しでもお役に立てばうれしいです」「手元にマスクがありますので政府から届いたマスクを寄付させていただきます。必要とされている方にお返しください」「これからの日本のためにがんばってください」など、マスクだけではなく、激励の言葉や取り組みに賛同する手紙も寄せられている。



政府配布の布製マスクは、札幌市内では概ね配布が完了し、道内各地も配布が広がっている。地協・地区連合では、連合北海道が作製した「マスク回収ポスト」以外に、独自のポストやボックスを市内数か所に設置しているところもあり、6月末までマスクの寄付を募っている。

まだまだ新型コロナウイルス感染症の対策を続けなければならない状況であり、連合北海道はマスクを必要としている施設・団体へのマスク寄贈の取り組みを展開していく。